あの日、何があったのか。

阪神・淡路
大震災 25年

追憶 神戸大から

1995年1月17日午前5時46分すぎに発生した阪神・淡路大震災。
灘区、東灘区でも多くの住宅が倒壊し、火災も発生。
神戸大では39人の学生と2人の教職員、神戸商船大でも学生5人と
研究員1人が亡くなった。

あれからまもなく25年。
キャンパスの学生のほとんどが震災後に生まれた世代。
JR六甲道駅や阪神高速道路が被災したことを知る学生はほとんど
いない。
ましてやゼミやサークルの先輩が無念の死を遂げたことも、ほとんど
伝わっていない。

神戸大メディア研は、六甲祭の屋内企画で、「阪神・淡路大震災25年～
あの日、何があったのか」をテーマに写真パネル展とトークセッションを
開催します。

会場：六甲台キャンパス 206教室

写真パネル展　11月9日（土）、10日（日）

会場では、崩落したＪＲ六甲道駅、深江で倒壊した阪神高速道路神戸線の高架、
焼け落ちた下宿アパートなどの記録写真とともに、亡くなった神戸大の学生の遺族
からのメッセージをパネル展示します。

トークセッション　11月10日（日）

【パネラー】

津久井 進さん（1993年・法卒）　13：00～
弁護士、日弁連災害復興支援委員会委員長

津久井さんは震災発生時、司法修習生だった。
東京から実家のある神戸に駆けつけて、神戸大学の学生震災救援隊に加わり
ボランティアとして活動を始めた。
神戸大でボランティア団体はどのようにして立ち上げられたのか。
ボランティ元年と言われた阪神・淡路大震災について、神戸大の視点から語る。


津久井 進さん

里田 明美さん（1996年・自然科学研究科修了）　15：00～
中国新聞地域ビジネス局

里田さんは当時、放送委員会の報道部門にいたが、ニュースネット委員会を
独立させて初代の編集長についた。
学内紙『NEWS NET』を創刊、震災報道を開始し、震災1年の特集号には学生、
教員、生協職員44人への追悼手記を掲載した。
今回は、地震発生直後の学内、下宿街の様子を語る。


住田 功一さん

【コーディネイター】

住田 功一さん（1983年・営卒）
NHK大阪放送局編成部エグゼクティブアナウンサー

住田さんは、当時『おはよう日本』のアナウンサーだった。
たまたま休暇で実家のある神戸に帰省していて、灘区内で被災。
実家からの電話リポートが、同局の神戸からの第一報となった。
元気なはずの大学生が数多く犠牲になったことに大きなショックを受けたという。
「おふたりのお話から、神戸大は震災にどう向き合ったか浮き彫りにしたい」という。

神戸大学メディア研（ラボ）
KOBE UNIV MEDIA LAB.